

# 法 話

若者への提言

# 社会生活と禅

佐瀬 霞山

社会生活とは、社会に出て自力で生活をする事と考えます。自力の生活をするには当然ですが、仕事に就いてその対価を受けなければ、自立は出来ないのであります。

## 1. はじめに

先に政府が若者（15歳から29歳）の仕事観や将来像と職業的自立について平成23年12月から平成24年1月までの間、インターネットで調査した結果が発表されております。その結果を踏まえて考えてみたいと思います。

### （1）「何の為に仕事をするのか」

第一位は、収入を得るため（63.4%）、自分の生活の為（51.0%）自分の夢や希望を叶えるため（15.0%）家族の生活の為（12.6%）

### （2）「望ましい職場」

人間関係が良い職場（71.5%）自分の才能が生かせる職場（54.1%）収入が多い職場（41.7%）

### （3）「仕事を撰ぶ理由として何がどれくらい大切か」

収入が多い（94.3%）、安定していて長く続けられる（94.6%）、自分が好きな事ができる（92.7%）、休みが多い（75.0%）

以上の事から、現在の若者の仕事観については、仕事を、収入を得て、自分の生活を支えるためのものとしてとらえて、安定して長く続けられるものが良いという堅実な見方をする傾向があると云えます。また、その一方で「自分の好きな

ことが出来る」が90.0%を超えて「安定」や「収入」と2ポイント差程度となっており、仕事に自己実現を求める者も同程度に多いと云えます。この様な現実を踏まえて、社会生活と禅との係わりはどうあるべきか、堅実な社会生活を実現するために何が必要であるかを、考えてみたいと思います。

一番大切なことは、人に信頼されることであると私は思います。上司に信頼され、同僚に信頼され、取引先の人にも信頼され、全ての人に信頼されることが、堅実な社会生活を実現する上に置いて、最も大切であります。では人に信頼される人物になるにはどうしなければならないのでしょうか。どんなに学校の成績が優秀であっても、それだけで信頼される人物には、必ずしもなれないのであります。人間力をつける、人間形成をしなければ、信頼される人物にはなれないと云えます。

この人間力を深めて、人に信頼される人物になる為には、集中力を養い、中心からずれない、今を忠実に正しく生きる必要があると思います。この集中力を養い、正しく生きるには、正しい人間形成をしなければならないと考えます。

視点を变えて、「望ましい職場」を考えてみたいと思います。

最近の就職状況を見てみると、学卒の就職も大変厳しいようです。私の考えでは、自分に合う仕事、自分の能力を生かせる仕事、収入が多い仕事、等色々云われますが、基本的に、弁護士、会計士、医師、等の資格の必要な職業は別として、就職する前から、自分に合った職場、自分に合った仕事を決めてかかって理想を追い求めてもそれは難しいと云わざるを得ません。

生まれてから、大学を卒業するまで、20数年間は、月謝を払って勉強をしてきた訳ですが、就職をするという事、収入を得るという事は、今までと180度違ってくるのです。自分の仕事の量と質に対しての対価として、収入を得る事が出来るのです。会社に入社して3年間は、会社はその人に対してはほとんど赤字です。仕事を理解して、自分で消化できるまでには、3年は掛かります。ですから、先ず仕事をするという事は、大変な事なのだという事をしっかり自覚をする必要があります。今までの様な学生気分では到底勤まらないのであります。

それなのに、自分に合った仕事が見つからない、モチベーションが高まらない等と云う事を良く聴きますが、今まで一度も働いたことが無いわけですから、そんなことは当然の事なのです。どんな仕事でも、仕事には貴賤は無いのです。その事をしっかり自分に言い聞かせなければならないと思います。

職に就くという事は、如何に自分が会社に、ひいては社会に貢献できるかという事であります。そこをしっかりととらえなければどんな会社に就職しても、職業人として実のある仕事が出来ないと思います。

又、就職して見れば判りますが、我々の時代（昭和 50 年代）の時は、休日は日曜日だけであり、携帯電話も無く、外に出れば、ある程度の自由は効きました。特に私などは零細企業であり、その営業をしていたわけですから、会社を一旦出れば、自由に動くことは出来、それなりの成果を上げていれば、とやかく云われることはありませんでしたが、報告、連絡、相談だけはしっかりと行ってきました。是は、正に禅による教え、特に作務の時の、段取り、真剣、後始末（尻拭い）が非常に役に立ったのです。

結局、どんな会社も一番大切で必要なものは、人間であり、その人であります。会社が伸びるのも、人材がいなければ、その会社は伸びないのであります。企業は人なりと云われますが、正にその通りであります。

現代では、携帯電話が普及したお蔭で、職場を離れても正確な指示を出すことが出来るようになりましたが、その分、前にも増して、しっかりとした段取りが本当に大切になります。

## 2. 青年部の人たちに

人間禅の1年間の予定は早くから決まっていますので、それに合わせて自分なりにしっかりと段取りをすべきであります。それが実際は出来ていないのです。その様な状態で本当の仕事が出来るとは思えません。第二世総裁妙峰庵老師は、良く我々が塾生の頃に云われておりましたが、「今は忙しいから暇になったら道場に行って修行します。」等と云う者が居るが、そんなのに限って暇になっても来やしない。忙しい中から時間を作って来るから、来た時間を大切にして、本格の骨

折ができるのだ。又そうでなければ本当の修行にはならない。と云われておりましたが、正にその通りであります。

本当に素晴らしい研究、本当の仕事をするには、三昧力が必要不可欠なのであります。それが出来なければ、本当の仕事は出来ないなのであります。本当に自分に納得のいく仕事・人生を味わうには、この三昧力・集中力が大切なのであります。

禅の素晴らしいところは、過去を振り返らず、未来を空想せず、唯今に生きる、今現在に全力を注ぐ事であります。全ての動物、植物、生物が生を受けた瞬間から、死に向かって進んでいるのであります。死亡率 100%であると、誰かが書いていましたが、正にその通りであります。人間の寿命はその人によってそれぞれに色々ある訳です。早い人もおれば、100 歳を超える人もおられますが、然しながら、必ず死を迎えるのです。自分自身の一生であります、本当の物を掴んで死にたいものであります。

### 3. 人間形成の進め方

本当の物を掴んで死ぬためには、どうすれば良いのか、何をすべきかと云うと、真実に生きる、本当に生きる事が最高の生き甲斐であり、それを納得して心の底から納得する為に、禅の修行をお勧めします。

この真実に生きるというものを人は生れながらに持っているのであります。この唯一絶対の真実で一生を貫ければ、正に生き甲斐の或る生活が出来るのであります。真に生き甲斐のある生活をするには、人間形成の修行が不可欠です。禅の修行はどういう事かと申しますと、人間禅創立者の耕雲庵立田英山老師が平易な言葉で作られました『五戒』をもって説明したいと思ひます。

第一は、「嘘についてはいけない」です。

これは「直心（真実）」ということで、一生を貫く根本問題です。いかなる大事業をしてもこの土台がなければ砂上の楼閣です。この直心は放っておくと「我」という雲がかかります。直心をよく養い雲がかからない様にしなければなりません。

ん、雲がかからなければ、家庭、社会が治まります。正に信頼される人物になります。

直心をしっかり育てて嘘をつかないことが出来ると人を見る目ができてきます。自分をごまかさなない人は他人にもごまかされません。

第二は、「怠けてはいけない」です。

これは「忠実」であれということです。すなわち、努力、根気です。親が子に何を残すかというと、財産を残してやるよりも、やり始めたことは最後までやり遂げる努力の習慣を身に付けさせることが何よりも大切です。

剣道なら、正しい一本の技を覚えるためには、それを繰り返し修行する。何年かかっても良い。一生かかってもよい。できるまでやる。そうすると心身に集中力ができて人間が開けるのです。何に於いても同じことです。努力して一生懸命やると、集中力が高まります。これを別な言葉で言うと、「三昧」になるということです。

第三は、「やりっぱなしにしてはいけない」です。

これは、「責任」ということです。やりっぱなしにしないということは、責任を持つということです。責任感が無かったら一人前の人間として通用しません。この責任感を如何にして養っていくかが、大きな問題であります。これらを身に付ければ、人間形成の土台ができます。

第四は、「我儘してはいけない」です。

これは、「尊敬」ということです。皆が信じあって仲良くする。ことに日本人の心は、「和」です。誰とも仲良くなれるのです。「わがままをしない」ということは、言葉を変えて云うと、相手の人格を尊重するということです。この芽を育てていき、相手を立てるということのを頭の中に入れておくことが大切だと思います。

相手の人格を拝み、自分の人格も拝む。この自他不二を形で示せば、合掌です。合掌の精神こそ人の道であります。

第五は、「ひとに迷惑をかけてはいけない」です。

これは「博愛」ということです。人に迷惑をかけないということは、別な言葉で云えば、人を愛するという事です。愛ということに徹底するという事になります。これは、自己以外のもの、即ち「社会」を形成させるものです。

この『五戒』をしっかりと肚に入れて、社会生活をするのが大切であります。本当にこの『五戒』が我が物になれば、人間形成は出来たと云っても過言ではないと思います。

それでは、この『五戒』を我が物にするにはどうすればよいかと申しますと、数息観をしっかりと習得して、三昧力を養う事が人間形成の基盤となるのです。正脈の師家に参じて、正しい方向に導いていただく事が最も大切な事であります。

我々は生まれてからずっと相対の世界にどっぷりつかって、全てを損得、有無、我彼という相対でしか見ていないわけであり、然しそれでは本当のものを掴むことは出来ないのであります。『五戒』を我が物にする事は出来ません。本当の自分というものをしっかりと掴んで、自分の心をはっきり持って、その心を自由自在に使う事が出来なければ、楽しい人生は過ごせないのであります。本当の正しいものを掴み、その正しいものが掴めれば、本当に楽しく生きることが出来るのであります。そうすれば本当の仲良ぐが出来るといふものであります。「正しく・楽しく・仲よく」が実践できなければ、人として生まれてきた甲斐がないといふものであります。

#### 4. おわりに

現在の世の中では、教育現場では、いじめがはびこり、この問題に教育者は誰も責任を取ろうとせず、事実を隠してまで、いじめはなかったと平気で云っている者は、教育者とは云えないのではないのでしょうか。

年間3万人の自殺者が14年間も続いていても、何の施策も出来ないような社会では、本当に悲しいと云わざるを得ません。我々は少しでも、一人でも自殺者

が減少して、いじめが減る社会にしていきたいと思っていますのであります、その為には、先ず自分の足元から固めて、本当の人間形成を進めて行く事が大切な事であると思います。

我々は、この素晴らしい人間形成の実践方法である呼吸法（数息観）の輪をしっかりと広めて、自分の心を落ち着けて、本当の自分をしっかりと掴むことが、世の中に大きな力を与えることが出来ると考えております。それが本当の社会生活であると思います。それを実践するにはしっかりと自分自身を見極めて、正脈の師家に師事して、自分を磨いていく事が大切であります。

今から、137年前明治8年、山岡鉄舟、中江兆民、奥宮造斎、等の方々が、新しい時代を造るためには、信頼される人物にならなければ、新時代を形成出来ないと考え、それを実現するために、鎌倉の円覚寺の管長であられた、蒼龍窟今北洪川老師を拝請して、禅の指導をして戴いたのであります。それが今日の人間禅の始まりであります。本当の人間形成をするための形がこの時に出来たのであります。この素晴らしい人間形成のための禅、それが人間禅であります。これを是非皆様と共に手を取りあって、この人間形成の輪を広めていきたいと思っています。

合掌

(平成24年8月11日青年・学生部参禅会(禅東院)において)

#### ■ 著者プロフィール



**佐瀬霞山**（本名／長和）

昭和24年生まれ。宏道会第四代会長を経て、現在同会師範。同会離位。小野派一刀流免許皆伝。現在、人間禅師家。庵号／千鈞庵。